

2014年3月3日

東京都知事 舛添要一様

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会 共同代表  
大橋智子(大橋智子建築事務所)  
上村千寿子(景観と住環境を考える全国ネットワーク)  
酒井美和子(デザイナー・まちまち net)  
清水伸子(一般社団法人グローバルコーディネーター)  
多田君枝(『コンフォルト』編集長)  
多見貞子(たてもの応援団)  
日置圭子(地域文化企画コーディネーター・粋まち代表)  
森桜(アートコーディネーター・森オフィス代表)  
森まゆみ(作家・谷根千工房)  
山本玲子(全国町並み保存連盟)  
吉見千晶(住宅遺産トラスト)  
住所 〒113-0001東京都文京区白山1-36-2-416  
メール info@2020-tokyo.sakura.ne.jp  
ファクス 03-6380-8812

**国立競技場計画には、  
「オリンピックムーブメント・アジェンダ21」を尊重、遵守してください。**

---

時下、ますますご清祥のことと存じます。

このたびは東京都知事に就任され、早速東京オリンピック・パラリンピックの招致都市責任者として、準備に取りかかれたことと存じます。

私ども「神宮外苑と国立競技場を未来に手わたす会」は、東京のそれぞれの地域で環境保護や歴史的町並みや建物の保存に携わってきた有志が2013年10月28日に結成した会です。

2020年のオリンピック・パラリンピックのための独立行政法人日本スポーツ振興センター(以下、JSC)の実施する新国立競技場計画には、市民の立場から見て大きな問題があると考えております。私どもは昨年来、内閣総理大臣をはじめ、文部科学大臣、JSC、東京都知事宛に「新国立競技場計画の再考」を求める要望書や公開質問状を提出して参りました。同時に、建築のみならず、スポーツ施設、ファシリティマネジメントなど、様々な分野の専門家をお招きして公開勉強会を開催致しております。知見が広がるにつれ、当計画は東京の都市の未来に禍根を残すものであるという気持ちは強まるばかりです。私たちの呼びかけにはすでに14000人の賛同者がおります。

勉強の過程で私たちは、「オリンピックムーブメント・アジェンダ21(以下IOCアジェンダ21と略称)」の存在を知ることとなりました。ご承知のようにこの条文は1992年に開催された環境と開発に関する国際会議、いわゆる「地球サミット」において我が国を含む182ヶ国の合意を得て採択された「アジェンダ21」が基になっています。国際オリンピック委員会(IOC)は「アジェンダ21」をオリンピックに則した内容として「IOCアジェンダ21」を策定し、1999年10月リオデジャネイロで開催された「第3回スポーツと環境世界会議」において、オリ

ピクムーブメントに関わる全てのメンバーがあらゆる努力をして取り組み守るべき目標として承認されたものです。

ところが、新国立競技場計画では、実施に当たっている JSC が、この中で述べられている具体的な目標のうち特に「3. 持続可能な環境維持開発のためのオリンピックムーブメント行動計画」の各項目の遂行に向けた努力を怠り、「IOCアジェンダ21」を遵守していません。

オリンピック憲章には、「オリンピック憲章やその他の IOC の規則や指示を遵守しない場合、あるいは NOC、OCOG、開催都市に契約上の義務の不履行があった場合に、IOC はいつでも開催都市、OCOG および NOC からオリンピック競技大会開催を撤回する権利を持つ。」とされています。

招致都市の責任者としての知事に、出来るだけ早く事の重大さを理解していただき、文部科学省や JSC と相談の上、計画の再検討を求めます。

## 新国立競技場計画が遵守していない「IOCアジェンダ21」の項目

--

### 3. 持続可能な環境維持開発のためのオリンピックムーブメント行動計画

#### 3.1. 6人間の住居環境および居住

競技施設は、土地利用計画に従って、自然か人工かを問わず、地域状況に調和してとけ込むように建築、改装されるべきである。

#### 3.2. 2環境保全地域および地方の保護

スポーツ活動、施設やイベントは、環境保全地域、地方、文化遺産と天然資源などの全体を保護しなければならない。

#### 3.2. 3競技施設

既存の競技施設をできる限り最大限活用し、これを良好な状態に保ち、安全性を高めながらこれを確立し、環境への影響を弱める努力をしなければならない。

既存施設を修理しても使用できない場合に限り、新しくスポーツ施設を建造することができる。

新規施設の建築および建築地所について、このアジェンダ21の3.1. 6節を遵守しなければならない。これら施設は、地域にある制限条項に従わなければならない。また、まわりの自然や景観を損なうことなく設計されなければならない。

## 1、既存の競技施設をできる限り最大限活用する努力を怠っています。

現国立競技場は、1964年の東京オリンピックのメイン会場であり、その後、50年にわたり、サッカーやラグビー競技場としても多くの市民に親しまれ、都民、国民が思い出を共有する場所になっております。人々の暮らしの痕跡までを文化資源として把握し尊重する流れの中ではその価値も高まってきました。「IOCアジェンダ21」は既存の競技場を「最大限活用し」としておりますので、まずこれを改修する計画を徹底して立てるべきでした。そうすれば新築のように資源を無駄遣いせず、ゴミも出さずに「環境に対する影響を弱める」ことができます。リフォーム、リファインの技術は大変進歩しており、トイレ、レストラン、エレベーターなどを増やし、質も向上させる、バリアフリー化なども十分改修で出来ると多くの著名建築家も言っております。

今の競技場に仮設のスタンドを設け、オリンピック終了後は、仮設部分を被災地で津波タワーとして使うなどのすてきなプランもすでに示されています。それこそ被災地の方々を励まし、東北と東京が一つになって楽しめるオリンピックへの道ではないでしょうか。

## **2、地域にある制限条項に従わず、 地域に調和しない建物を作りまわりの自然や景観を損ねようとしています。**

---

新国立競技場のデザインコンクールが実施された時点では、国立競技場周辺には「最高高さ制限20m」「明治神宮内外苑付近風致地区」などの制限がかかっていました。「IOCアジェンダ21」に従えば当然これを遵守しなくてはなりません。さらに2004年に制定された「景観法」により、2008年に策定された「東京都景観計画」で、この地区は「首都東京の象徴性を意図して造られた建築物の眺望の保全に関する景観誘導」をすべき地域に指定され、「聖徳記念絵画館の広大な眺めを将来に渡って継承する地域」とはっきり位置づけられています。

ところが、デザインコンクール要項では既存の明治公園を廃止することにし、敷地を拡大した上で、「**地域にある制限条項**」を3倍以上逸脱した高さ70mの建物デザインを募集しました。これは明らかに「**IOCアジェンダ21**」に違反しています。その後東京都都市計画審議会は、巨大な新国立競技場を建設するために提案された「地区計画」を論議もなく通過させ、「**IOCアジェンダ21**」が重視している「**地域にある制限条項**」をないものとししました。その結果最優秀案に選ばれたザハ・ハディド案は既存の樹木の上からその巨大な姿を現し、これまで守られてきた景観を阻害し、「**まわりの自然や景観を損ない**」ます。これらの行為は、「**IOCアジェンダ21**」が保護すべきとしている「**文化遺産と天然資源**」の破壊につながります。

## **3、持続可能な環境維持開発のための オリンピックムーブメント行動計画を遵守していません。**

---

巨大で電気仕掛けの新国立競技場を建設・維持することは、かぎりある資源を大量に消費し、次の世代に過大な負荷を残し、「**IOCアジェンダ21**」のいう「**持続可能な環境維持**」から遠のいてしまいます。現在、我が国は、1000兆円を超える負債を抱えており、しかも東京の人口が2050年にはピーク時の半分になると試算されています。こうした縮小時代を見極め、未来世代に恥ずかしくない計画にしたいものです。2016年の招致プログラムではスタジアムは臨海部でソーラーパネルを屋根に乗せ、カーボンマイナスオリンピックを謳っていました。

先のロンドンオリンピックでは、「**IOCアジェンダ21**」を尊重・遵守することにより、工場跡地の土壌改良と住環境の整備、競技場の減築による次世代への負担の軽減など、豊かな市民生活の実現に大きな貢献をし、都市政策として市民から高く評価されるとともに世界に賞賛されました。

2020東京オリンピック・パラリンピックに於いても、文化遺産や自然遺産を保護しつつ、次世代に負荷を残さない、世界から尊敬されることが『**世界一のオリンピック・パラリンピック**』となります。ご就任以来の待機児童対策など、暮らしに寄り添った政策に共感を覚えますが、オリンピック・パラリンピックに関しましても、知事の英断により「**オリンピックムーブメント・アジェンダ21**」を尊重、遵守するよう関係者への働きかけのリーダーシップを発揮していただけますよう、お願い申し上げます。